

## 平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月12日

上場会社名 株式会社 NFKホールディングス  
 コード番号 6494 URL <http://www.nfk-hd.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

(氏名) 城寶 豊  
 (氏名) 田中 耕

TEL 045-575-8000

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	2,870	△31.6	194	—	221	—	143	—
20年3月期第3四半期	4,194	△42.3	△267	—	△702	—	△2,121	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	4.84	4.72
20年3月期第3四半期	△77.56	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期第3四半期	4,224	2,573	2,573	60.9	86.79	
20年3月期	4,380	2,440	2,440	55.7	82.30	

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 2,573百万円 20年3月期 2,440百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
21年3月期	0.00	0.00	0.00	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,920	△45.3	220	—	232	—	154	—	5.19

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

### 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
  - ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
  - ② ①以外の変更 無
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

#### (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第3四半期	29,653,342株	20年3月期	29,653,342株
② 期末自己株式数	21年3月期第3四半期	227株	20年3月期	187株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第3四半期	29,653,142株	20年3月期第3四半期	29,653,162株

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## ・ 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱に伴う、急速な株価下落と円高進行により、実体経済が深刻な影響を受ける形となりました。先行きの不透明感はますます色濃いものとなっており、景気の後退局面に入ったことは明らかな状況であります。

このような状況下、当社グループは工業炉燃焼装置関連事業に集中し、当社の高度な技術を活かした工業用回転炉・燃料転換用装置及び燃焼系工業炉・加熱炉・リジェネレイティブバーナなどの拡販に努めた結果、売上高は堅調に推移いたしました。また、利益面におきましても仕入れコストの見直しや原価管理の厳格化、無駄を排除し効率性のアップに努めるなどの収益改善について全社的な取組みを行い、一定の成果を挙げております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,870,654千円、営業利益は194,459千円、経常利益は221,870千円、四半期純利益は143,524千円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して155,149千円減少し、4,224,885千円となりました。主な増加要因は受取手形及び売掛金の増加527,057千円、長期貸付金の増加752,000千円であり、主な減少要因は現金及び預金の減少590,680千円、投資有価証券の減少323,686千円であります。負債につきましては、前連結会計年度末と比較して288,074千円減少し1,651,388千円となりました。主な減少要因は短期借入金の減少270,000千円であります。純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して132,925千円増加の2,573,496千円となりました。主な増加要因は四半期純利益の計上によるものです。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して55.7%から、60.9%へと上昇いたしました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末の944,877千円から631,387千円減少し313,490千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フロー及びその主要な要因は以下の通りです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは552,280千円のマイナスとなりました。これは主に、売上債権の増加及び法人税等の支払によるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは159,253千円のプラスとなりました。これは主に、貸付による支出を投資有価証券の売却による収入が上回ったことによるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は238,360千円のマイナスとなりました。これは主に、短期借入金の返済によるものです。

## 3. 連結業績予想（個別を含む）に関する定性的情報

下期における我が国経済は、世界同時株安や円高などの状況から、極めて厳しい局面を迎えており、予断を許さない状況となってきております。そのため、当社グループを取り巻く事業環境も厳しい状況で推移していくものと予想されます。当社では、売上高につきましては、回転炉などの燃焼系工業炉や燃料転換用装置、および、リジェネレイティブバーナーなどの拡販に努めた結果、国内向け売上高は堅調に推移致しましたが、世界的な景況悪化や円高等の影響から、海外向け売上高が想定を下回る状況

となり、3,920百万円（前回予想4,120百万円）となる見込みです。また、利益につきましては、当四半期も前四半期に引き続きグループ一丸となって、受注案件の原価管理の厳格化、物的・人的資源の配分の見直し、製造工程の見直しなどを行った結果、不採算案件やクレーム費用等が減少し、営業利益は220百万円（前回予想159百万円）、経常利益232百万円（前回予想170百万円）、純利益154百万円（前回予想124百万円）と、前回の予想を上回る見込みであります。また、個別業績予想につきましては、売上高は前回予想通りの415百万円、営業利益、経常利益、純利益は経費の節減効果などからそれぞれ、55百万円（前回予想43百万円）、57百万円（前回予想45百万円）、120百万円（前回予想96百万円）となる見込みです。

このような状況を踏まえ、平成20年10月31日に公表いたしました平成21年3月期 通期（連結・個別）業績予想を上方修正いたしました。

詳細は、本日（平成21年2月12日）公表いたしました「平成21年3月期 通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	375,431	966,112
受取手形及び売掛金	1,837,939	1,310,882
原材料	151,273	112,635
仕掛品	433,104	380,549
その他	175,582	54,603
貸倒引当金	△6,169	△5,012
流動資産合計	2,967,161	2,819,770
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	125,421	128,871
機械装置及び運搬具(純額)	10,748	12,197
土地	737,027	737,027
その他(純額)	20,559	25,574
有形固定資産合計	893,757	903,672
無形固定資産		
のれん	15,011	19,104
その他	32,981	27,320
無形固定資産合計	47,992	46,425
投資その他の資産		
投資有価証券	173,379	497,065
長期貸付金	896,000	144,000
関係会社長期貸付金	—	900,000
その他	209,287	184,539
貸倒引当金	△962,692	△1,115,439
投資その他の資産合計	315,973	610,166
固定資産合計	1,257,723	1,560,263
資産合計	4,224,885	4,380,034

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	576,608	474,522
未払金	43,108	—
賞与引当金	44,597	69,160
未払法人税等	30,164	117,745
その他	266,141	585,017
流動負債合計	960,620	1,246,446
固定負債		
長期借入金	68,639	60,999
退職給付引当金	343,219	354,624
再評価に係る繰延税金負債	261,105	261,105
その他	17,804	16,287
固定負債合計	690,768	693,016
負債合計	1,651,388	1,939,463
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,091,252	7,090,309
資本剰余金	—	942
利益剰余金	111,134	△5,032,389
自己株式	△192	△191
株主資本合計	2,202,193	2,058,671
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10,708	△111
土地再評価差額金	382,011	382,011
評価・換算差額等合計	371,302	381,900
純資産合計	2,573,496	2,440,571
負債純資産合計	4,224,885	4,380,034

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	2,870,654
売上原価	2,018,901
売上総利益	851,752
販売費及び一般管理費	657,292
営業利益	194,459
営業外収益	
受取利息及び配当金	1,866
仕入割引	6,337
持分法による投資利益	3,639
為替差益	14,186
その他	4,871
営業外収益合計	30,901
営業外費用	
支払利息	2,529
その他	960
営業外費用合計	3,490
経常利益	221,870
特別利益	
投資有価証券売却益	29,353
貸倒引当金戻入額	11,603
受取和解金	14,000
その他	6,221
特別利益合計	61,177
特別損失	
保険解約損	31,644
固定資産除却損	674
その他	1,184
特別損失合計	33,502
税金等調整前四半期純利益	249,545
法人税、住民税及び事業税	89,736
法人税等調整額	16,284
法人税等合計	106,021
四半期純利益	143,524

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成20年4月1日  
至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	249,545
減価償却費	20,471
のれん償却額	4,093
固定資産除却損	674
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△9,589
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△11,405
受取利息及び受取配当金	△1,866
支払利息	2,674
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△3,424
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△24,562
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	2,364
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△3,351
持分法による投資損益 (△は益)	△3,639
投資有価証券売却損益 (△は益)	△28,826
仕入割引	△6,337
和解金	△14,000
その他の営業外損益 (△は益)	△14,186
保険解約損益 (△は益)	32,301
売上債権の増減額 (△は増加)	△527,057
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△91,084
未収入金の増減額 (△は増加)	△434
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△63,702
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	15,100
仕入債務の増減額 (△は減少)	102,086
小計	△374,154
利息及び配当金の受取額	1,866
利息の支払額	△2,674
法人税等の支払額	△177,316
営業活動によるキャッシュ・フロー	△552,280
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△39,037
定期預金の払戻による収入	24,768
投資有価証券の取得による支出	△154,901
投資有価証券の売却による収入	455,608
有形固定資産の取得による支出	△9,832
固定資産の売却による収入	482
出資金の払込による支出	△1,240
貸付けによる支出	△101,000
貸付金の回収による収入	16,000
その他の支出	△38,110
その他の収入	6,515
投資活動によるキャッシュ・フロー	159,253
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△250,000
長期借入れによる収入	48,808
長期借入金の返済による支出	△37,168
財務活動によるキャッシュ・フロー	△238,360
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△631,387
現金及び現金同等物の期首残高	944,877
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 313,490

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### (4) 継続企業の前提に関する注記

当社グループは、当第3四半期連結会計年度においては、営業利益194,459千円及び四半期純利益143,524千円を計上しておりますが、営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度より引続きマイナス552,280千円となっております。これは、積極的な営業活動により今期当社が受注した来期完成予定の自動車関連会社向け大型受注案件において322,343千円の仕入代金等の先行支払いが生じている為であります。そのため、当第3四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローのマイナス要因は、あくまでも一時的なものと考えております。

しかしながら、前連結会計年度まで当期純損失を継続して計上していたこと、前連結会計年度より引き続き営業キャッシュ・フローがマイナスとなっていることなどから、当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当第3四半期連結会計期間において、当社では工業炉燃焼装置関連事業に集中し、当社の高度な技術を活かした製品の拡販に努めるとともに、仕入れコストの見直しや原価管理の厳格化、無駄を排除し効率性のアップに努めるなどの収益改善について全社的な取り組みを行い、一定の成果を挙げております。この結果、期初の予想を上回る業績にて推移しております。今後も引き続き、全社的な資源の見直しや、収益改善策を実行し、黒字体質への転換を確実にします。また財務の健全性に配慮し、営業キャッシュ・フロー等についても改善を図るため、売掛債権を早期に回収する事などにも取り組み、早期に継続企業の前提に関する重要な疑義が解消できるよう、経営努力を行ってまいります。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

## (5) セグメント情報

## a. 事業の種類別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	工業炉燃焼装置 関連事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,868,162	2,492	2,870,654	—	2,870,654
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	315,342	315,342	(315,342)	—
計	2,868,162	317,834	3,185,997	(315,342)	2,870,654
営業利益	456,931	305,101	762,033	(567,573)	194,459

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品

(1) 工業炉燃焼装置関連事業・・・・・・各種バーナ及び燃焼装置・各種燃焼装置並びに各種工業窯炉の製造・販売

(2) その他の事業・・・・・・・・・・・・投資事業等

## b. 所在地別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する支店又は連結子会社がないため該当事項はありません。

## c. 海外売上高

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	A地域	B地域	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	279,256	205,422	135,374	620,053
II 連結売上高(千円)	—	—	—	2,870,654
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.7	7.2	4.7	21.6

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

当社は、平成20年8月1日付で資本金及び資本準備金の取り崩しを行い、それぞれ「その他資本剰余金」に振り替えました。そして、振り替え後の「その他資本剰余金」にて繰越利益剰余金を欠損補填にあてました。この結果、当第2四半期連結会計期間において資本金が4,999,057千円、資本準備金が942千円減少し当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,091,252千円、資本準備金が0円となっております。

「参考」

## (1) 前第3四半期連結損益計算書

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年12月31日)	
	金額(千円)	百分比 (%)
I 売上高	4,194,456	100
II 売上原価	3,460,304	82.5
売上総利益	734,151	17.5
III 販売費及び一般管理費	1,001,562	23.9
営業利益又は営業損失(△)	-267,411	△6.4
IV 営業外収益		
1 受取利息	1,411	
2 受取配当金	1,068	
3 仕入割引	3,410	
4 その他	3,877	
	9,768	0.2
V 営業外費用		
1 支払利息	219,398	
2 持分法による投資損失	106,893	
3 財務支払手数料	83,301	
4 その他	35,042	
経常損失	444,636	10.6
	702,278	△16.7
VI 特別利益		
1 固定資産売却益	195	
2 投資有価証券売却益	181	
3 その他特別利益	2,355	
	2,731	0.1
VII 特別損失		
1 投資有価証券評価損	170,692	
2 貸倒引当金繰入額	1,192,036	
3 減損損失	168,926	
4 その他	119,539	
	1,650,194	39.3
税金等調整前中間(当期)純損失	2,349,742	△56.0
法人税、住民税及び事業税	16,783	
法人税等調整額	-4,269	12,514
	12,514	0.3
少数株主損失	240,291	5.7
第3四半期(当期)純損失	2,121,965	△50.6